学校だより

和歌山市立四箇郷小学校
２０１９年度　≪№.６４≫
11月号　文責／校長:上田　仁

閉鎖と開放

１１月は学校開放月間です。催しや行事以外，つまり何もない平日でも来校していただいて結構です。お子様や学校の普段の姿や様子を見ていただければ幸いです。お一人で来ることに抵抗があるならば，お知り合いと待ち合わせてご一緒に参観するのもいいかもしれませんね。

さて，２００１年（平成１３年）に，大阪の小学校で大きな事件があったことはご存知でしょうか。お家の方々の中には，その頃はまだ学生だった方もいらっしゃるかもしれません。とにかく衝撃的な事件であって，それ以来，学校への侵入者を防ぐ重要性がことあるごとにマスコミで叫ばれるようになってきました。当時，岩出市の小学校に勤務していた私に，地域や保護者の方々からいろんな声が漏れ聞こえてきました。「そんな低い門，閉めても乗り越えられるし」とか，「こんな塀やったら意味ないわ」とか。また，「子供が遅刻して行ったら門が閉まってて入れなかった！」ということも。逆に「高いブロック塀で学校を囲んだら，まるで刑務所みたいや」という声もあったことを覚えています。

今は，それまでの学校の閉鎖的な風土や雰囲気を改善し，人的にも風通しのいい環境をつくる目的で，積極的に地域や保護者の方に学校を開放するようになってきています。閉鎖をすることのみで安全を確保するのでなく，開放することでより多くの健全な大人にかかわってもらい，それが抑止力になるという考えもまたあるわけです。但し，意味や目的もなく，方針も展望もないことでは困ります。「うちの学校は大丈夫」と安心していては困るのです。そう考えると，開放をしながらでも外部から侵入する者への警告と抑止のために，学校にも積極的に防犯カメラを設置する時代になってきているのかもしれません。そしてそれを進めるのは，校長の権限と責務だと考えています。

街角により多くの防犯カメラを設置してほしいという声が，四箇郷地区の会議で出ていることも考えると，学校も例外ではないと思っている次第です。

１年生が「うちどく」始めます

和歌山市教育委員会は，毎月第１土曜日を「うちどく（おうちで読書）」の日と設定しています。

本校においては，読書活動の充実に向け，これまで毎週土曜日を「うちどく」の日とし，家庭学習に「読書」を入れています。土曜日よりも日曜日の方がよいというご家庭もあるかと思います。それでも結構です。家庭の事情や子どもの発達に応じて，３０分から１時間程度，テレビを消して，家族一緒に読書をしてみてください。

「うちどく」に特別なルールはありません。『家族で好きな本を読んで，読んだ本について話す』。これが基本です。同じ本を回し読みしたり，読んだ本を読書カードに記録したり，家族でルールを決めてスタートしてみてください。同じ本を家族で読めば，会話もいっそう弾みます。大きめの絵本を家族で見たり，一つの本を読んで感想を言い合ったりするのも楽しいものです。また，お互いに本をすすめ合う，家族そろって本屋さんで本を選ぶなど，読む本について相談し合うことでもコミュニケーションが生まれます。ぜひよろしくお願いします。